

日本語プレスリリース

ケーナは南米アンデス山脈(ペルーやボリビア)に伝わる縦笛の民族楽器です。ケーナは日本の尺八にとっても近い楽器です。その特性を活かして、日本の伝統音楽と西洋音楽を融合させた独自の音楽を奏でております。演奏会では、自作のオリジナル楽曲を中心に、日本のわらべ唄や南米のフォルクローレ、「コンドルは飛んで行く」や「花祭り」なども演奏しております。

きっかけ：アメリカ西海岸ロサンゼルスに住んでいたとき、友達の家飾りにあったケーナを(その当時はケーナだとは知らない)手に取り吹いてみたところ、一瞬にして「これが探し求めていた音だ！」とひらめく。その和風の音色と尺八に似たフレージング感に魅了され、この楽器のために作曲してみようと思いつく。当時アメリカの音楽にどっぷり浸かっていた永田を思わぬ角度から不意を突いた瞬間がこのケーナとの出会いであった。それと同時期にしてロサンゼルスで日本文化を紹介するイベントに出演する機会に恵まれる。それに間に合うように楽曲制作を進め、普段から一緒にやっているロック/ジャズミュージシャンを集めバンドを結成。そのリハーサルで今のソウル オブ ジャパンの構想が形成された。

ケーナ奏者永田独歩の最新アルバム、ソウルオブジャパン発売

Doppo Nagata, Soul Of Japan (ドッポ ナガタ, ソウル オブ ジャパン) 品番DNCD-1002

12曲入りインストルメンタル

ケーナ奏者永田独歩の第二弾がついに完成！「ケーナだから南米の曲を演奏しなくてはならない」なんていう常識をぶち破り、永田自身が書き下ろした和洋折衷かつ温故知新なオリジナル曲で楽器ケーナの常識を打破！そのタイトルも”ソウルオブジャパン”やまところである。

1作目のリゾネーターから9年ぶりの新作、全曲書き下ろし。、リフレッシュし、新たに動き出した永田が2016年の春からこのアルバムの作曲を始める。ライブ活動の合間に作曲、録音そしてミックスをして、2018年春に完成。

ケーナのアルバムなんて世界中探してもそうはない。南米のフォルクローレならまじりも、モダンでコンテンポラリーなものは殆どと言っていいほど無いだろう。そういう点においても永田独歩のこのアルバムはケーナの可能性を突き詰めた屈指のアルバムだと言えるのではないだろうか。

人種の垣根 (ルツボ) ロサンゼルスであらゆるジャンルの音楽と向き合った経験を元に音楽が作曲されており、一つのジャンルで括ることは容易では無いが、あえて

言うなれば、モダンなアドリブ即興演奏もあり、ジャズ/ワールド/フュージョンと言えるであろう。

トラックは全ての楽器を永田自身が演奏しています。リズムビートもバラエティーに富んでおり、12曲全てが個性の強い違ったビートになっており、その上で繰り広げられる永田の和を感じさせるケーナのメロディーは絶妙の雰囲気醸し出している。この点もこのアルバムを楽しむ上での秘訣であろう。